

札幌市教育委員会挨拶回り報告

2011年6月29日(水)午後2時

生涯学習部生涯学習推進課： 木村課長、伊藤係長、上野主査

「北海道に夜間中学をつくる会」から

工藤代表、泉事務局長、飯塚・白倉事務局次長、篠原さん

冒頭、市教委から、公立夜間中学の開校の要請から、学校教育部にも同席するよう求めたが、議会開催中で出席できなかったことの説明を受けました。

(後日、改めて挨拶を行います。)

総会修了後の事務局体制を報告しました。亀貝さんが、共同代表を降りられたこと、新事務局員の紹介をしました。

総会で活動報告をしたように、木村課長の「札幌市教委は札幌遠友塾の活動に責任を負う」、「学校教室の継続した使用の保証」(便宜供与)発言にお礼を述べました。

札幌遠友塾は学校教室の使用をえて、これからは授業内容の充実に向け取り組んでいくことの説明をしました。

「平成23年教育委員会実施プラン」についての意見

—人間尊重の教育の推進—

「すべての教育活動において基本的人権を尊重する」主な事業・取組に、①民族教育②子どもの権利条例③男女平等教育が挙げられている。ここには、「義務教育未修了者の教育」も含まれるのでは、と提案しました。

また、「豊かな心の育成」に、「保護者・地域と連携し、人間尊重の精神や生命の尊重、規範意識や公共の精神」などが謳われている。

これに、遠友塾は札幌市の公共施設、事業などの理解をする授業や行事など通じ、「公民意識」について取り組んでいる。その他、向陵中学校の生徒・教職員との交流、PTAや学区町内会・自治会からの支援・連携を少しずつ進めている。

これらのことから、財政のかからない「共同事業」についても検討を加えてもらいたい、と話をしました。

そうすることで、遠友塾と学校との交流などが促進され、お互いの授業に役立てることができるし、公共の精神を育むようになる、そして、水曜日以外の教室利用につながるのではないかと提案しました。

札幌遠友塾は、不登校経験者などの若い人たちも学んでいる。年長の人たちの気遣いなどがあり、その人たちの「居場所」にもなっているなどを話しました。その人たちが遠友塾を卒業するということは、どういうことか、生涯学習での「社会的自立の支援」ということなどこれから考えていきたい、と話しました。

またこの間、札幌市議会各会派の文教委員に挨拶回りに行って話し合ったことを報告しました。

市公報「さっぽろ」を使った遠友塾の紹介や募集などは、全局に記載事項の縮小が求められており、新たに入れる難しい状況が説明されました。